

国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター

「自治体向けの認知症発症/進行のリスク早期発見の手引き」の公開

国立研究開発法人 国立長寿医療研究センターが、日本独自の認知症早期発見・早期介入モデルの確立に向けた大規模実証研究（J-DEPP 研究）の成果をもとに作成した「自治体向けの認知症発症/進行のリスク早期発見の手引き」を公開しました。

「自治体向けの認知症発症/進行のリスク早期発見の手引き」

https://www.ncgg.go.jp/ri/report/documents/jdepp_guide_v1.pdf

プレスリリース

<https://www.ncgg.go.jp/ri/report/20250828.html>

https://www.ncgg.go.jp/ri/report/documents/20250825_pressVer2.3.pdf

本手引きは、地域で認知症発症/進行のリスク早期発見・早期介入・診断後支援を実践するときの参考となるよう、具体的な準備や啓発活動、検査の実施、支援の方法などがステップごとにまとめられています。医療・介護との連携についても詳細に示されています。神戸市、松戸市、文京区等の先行事例も掲載されており参考になります。

図4: 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供

